

# 生涯学習

No.554

かおり高い  
文化のまち

発行 下諏訪町教育委員会  
編集 生涯学習  
編集委員会

〒393-8501  
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40  
(下諏訪総合文化センター内)  
☎ 0266-27-1111(内線718)  
FAX 0266-28-0131  
E-mail=syougai@town.  
shimosuwa.lg.jp

生涯学習 2020.7 10

集い、学び、競う場所としての

「AQUA未来」  
アックアミライ



長野県ボート協会理事長

木下 芳樹

SHIMOSUWA ROWING PARK  
「AQUA未来」のオープンに  
際し、長野県ボート協会として、  
関わらせていただきました経緯  
のお話をさせていただきました思  
います。

検討初期に、青木悟町長より  
一枚の構想スケッチを拝見させ  
ていただきました。そのイメー  
ジには八ヶ岳に向かって漕ぎ出  
せるような斬新な桟橋と、周囲  
の山の稜線に繋がる屋根の輪郭  
を持ち、景観への調和を意識し

た艇庫の意匠がありました。こ  
の環境を提示して、2020年  
東京オリンピックキャンプの招  
致(延期)を行い、住民の皆様  
に間近にオリンピックの姿を見  
て戴きたい、というビジョンも  
併せて伺い知ることとなりました。  
まさにワクワクするような  
構想でした。

湖のほとりに、建物を造るこ  
とは、様々な課題の解決が必要  
でした。百年に一度の大雨にも  
耐える建物とするために、艇庫  
地面の高さは有事の水位上昇に  
耐えるよう、諏訪湖の貯水・放  
流能力から緻密に計算し決定さ



青木町長、協会メンバーにてクロアチアチーム  
ヘッドコーチと2020年東京オリンピックキャン  
プの誘致活動を実施。

れています。また、各種災害が  
頻発している中、湖周道路が機  
能不全に陥った場合には、船に  
よる対岸への人・物の輸送も可  
能な防災拠点として機能する画  
期的な考えに基づき計画されま  
した。

下諏訪町では、本計画を進め  
るにあたり、構想検討で「湖畔



「AQUA未来」のロ  
ゴマークは、諏訪湖  
／赤砂崎より八ヶ岳  
を望むイメージから。



の健康スポーツ構想プロジェクト」として、広く意見を募る場を設けていただきました。私共ボート関係者のみならず、町内外の幅広いスポーツ団体、学校の先生、役場関係者より、偏りのない意見の吸い上げを行っていただきました。付設された展望テラスや、足湯の発想はこの会議からの意見より実現に結びつ

下諏訪中学校男子クオドルプルクルーの緊張した面持ちでのスタート。



下諏訪町役場職員チーム「諏訪湖艇友会」のメンバー

たと思っております。

当エリアはSHIMOSUWA ROWING PARKと命名されました。「PARK」とは、人が集うことを目的としています。新装された環境で、この素晴らしいスポーツをやってみたくて集う方々が大いに増えることを願っております。生涯に渡り、競技力の向上とスポーツ精神の学びの場として機能させたいと考えています。

将来への活動では、2023年全国市町村交流レガッタの内々定、2027年に国民体育



大会ボート競技会が内定しております。協会と致しませても有意義に活用させていただきます。生涯に渡りボートで競い合える選手の手育成・サポートを使命と考え

ます。また、競技のみならず、乗艇を体験できる「親と子のボート教室」等の普及活動、お子さんお孫さんの練習を展望テラス、足湯につかりながら眺められるこの「PARK」を美しく維持する心がけも大切と感じております。

一刻も早い新型コロナウィルスへの社会状況の鎮静化と、「集い、学び、競う」場所としてSHIMOSUWA ROWING PARK「AQUA未来」が多くの人々で賑わい、我が街の誇れる場所として永く愛されますことを心より希望致します。



- ・右栈橋に、災害発生時には水上輸送船が接岸可能。
- ・艇庫の屋根の輪郭は、周囲の山々の稜線に繋がり景観に調和する。
- ・建物の外観は色彩分割され、大きさを感じさせない工夫がされている。
- ・右側に足湯が、屋上テラスからは八ヶ岳、富士山の眺めがよい。

## 社会教育委員会報告

### 文芸創作を通じて



図書館協議会会長

依田 秀人  
よだ ひでと

諏訪地方に伝わる民話や昔話を元に、シナリオとして幾つかの場面に再構成する。場面ごとに絵を描いてもらい紙芝居として完成させる――。

町立図書館の自主企画として始めた活動は5回を数えた。

霧ヶ峰高原や八島湿原を舞台にした悲恋物の「山彦とかきつばた」、人を化かして楽しむ狐を題材にした「白狐」は上諏訪が舞台、養蚕業が盛んになるきっかけを書いた「天から降ってきた虫」、諏訪地方に伝わる大男伝説を題材にした「でえらぼっち」。いずれの紙芝居も町立図書館に置いてあり、利用する

ことができる。

昨年度は、諏訪湖で下駄スケートが楽しめた昭和20年頃の諏訪地方を舞台にした「すみちやんと下駄スケート」を紙芝居として仕上げた。原作者は下諏訪町の方（故人）で、図書館で話創作教室を開いていた頃の受講者だった。

日常的には雑誌「とうげの旗」へ児童文学、同人誌「風」へ小説の投稿を行っている。



創作に必要なのは、調べること、考えること、構想すること、そして書くこと。何よりも重要なのは、日々の生活の中で常に題材を求めて思考のアンテナを張ること。

昔のことであれ、全くのフィクションであれ、自身の経験に基づいたものであれ、題材を物語にする際には、常に「よりよ

### とびだせ！はりきれ！夏休み子ども研究所



学識経験者 河西 優子  
かさい ゆうこ

という気持ちも込めています。開催講座は18講座、のべ開催回数は34回行っています。

夏休み期間行われる「夏休み子ども研究所」も6年目となりました。夏休みに「子ども」と「研究（クラフト・工作・学習など）」をするイベントとして開催をしています。実は私たち講師も「子ども」たちを「研究（楽しさ・ひらめき・新しいアイデアなど）」したい！と

「未来」を意識してきた。自分が自分として、人が人として生きられるよう、これからも文化的な活動を通して、思いを発信してゆきたい。

社会教育などとあらためて意識しなくても、結果としてこれらすべてが社会教育なのだと思

講座の講師は基本的には町内で自営業をしている若者が中心です。講師にお願いしていることは「長い夏休み、子どもたちにもわくわく・どきどきしながら新しいひらめきや体験をさせてほしい」という一点です。毎年違う講座もあれば、あえて毎年同じ講座を実施する講師もいま

す。講座の内容と仕事が一致している場合もあれば、まったく違う講座を開くこともあります。

「夏休み子ども研究所」の特徴としては「夏休みの一研究ができるよ!」「興味があることをやってみよう」というのももちろんですが、「地域の人に教わる」「あまり行ったことのない地域の商店街や、場所に行ってみる」「いろいろな仕事があることを知る」といったことも提供できればと思っています。

「樹脂の化石を磨いてピカピカにしてみよう」「小鳥の巣箱を作ろう」「ネイルを塗ってみよう」「墨で暑中見舞いを書いてみよう」「万華鏡を作ろう」「からころかわいい木のすずを作ろう」などなど。題名だけでもわくわくするような講座がたくさんあります。

講師の皆さんはみな「地域の子どもたちのために、何かできると嬉しいな」と思って参加をしてくれています。最初の講座はまだまだ慣れなくても、次の講座は来てくれた子どもたちの反応や、考えを反映してまたパ

ワーアップをした講座を開催してくれています。

最近では親子で講座に参加する方も増えてきました。

親子で一緒に作るのもいいですし、親子でそれぞれのものを作るのも楽しいです。「えっこんな色が好きなの?」「おお、こんなセンスなんだ。すごい!」と新しい発見もあります。

カラフルな「子ども研究所」のパンフレットも、町内のデザイナーの方に作ってもらっています。また今年も、あのカラフルで楽しいパンフレットを用意して子どもたちの応募を募ります。町内各所にパンフレットをおいてありますので、ぜひ大人の方も手に取ってご覧ください。



## 地域の皆様に育まれる「しもすわっこ」意識



下諏訪中学校長 宮坂 博喜

に考え、語ってくださるお姿があります。

昨年4月より、下諏訪中学校にお世話になっております。学校長として、また、社会教育委員を務めさせていただく中で感じたことは、「下諏訪は、地域の皆様が、様々な場で子どもたちと本心に熱心に関わり、育ててくださっているな」ということでした。

また、社会教育委員の皆様が取組等をうかがった際には、子どもたちの個性や社会性を伸ばすべく、各種イベント、ボランティア、創作活動など、バラエティー豊かな学びの場をたくさんご用意いただいていることを実感いたしました。本校の子どもたちも、こうした場で、様々なことにチャレンジさせていただき、育てていただいていることに感謝であります。

例えば、本校には「地域連携会議」や「下中を語る会」など、地区の課題や行事について、子どもたちが、地区役員やなぎがまコミュニティースクールの皆様、地域諸団体の代表の皆様方と語り合わせていただく場があります。こうした際には、地域の皆様が、常に子どもたちの話に本気になって耳を傾け、共

こうした地域の皆様のお力や愛情によって、子どもたちの心の中には着実に「しもすわっこ」意識が育まれておりますことを、昨年度に行われた全国学力・学習状況調査（3年生対象）の「生徒質問紙」の回答結果が表していると感じましたのでご紹介します。

例えば「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いに「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した生徒の割合は、全国平均51%に対して、本校では69%（全国比+18%）、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えること」がありますか」という問いには、全国39%に対し、本校50%（+11%）、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて外国の人にもっと知ってもらいたいと

思いますか」という問いには、全国59%に対し、本校72%（+13%）と、どれも大きく全国を上回る結果となりました。地域を愛し、誇りに思う気持ちで下諏訪の子どもたちの心の中に大きく育まれています。これからも、地域の皆様と共に、子どもたちの心に「しもすわっこ」意識を育むべく共に取り組んで参りたいと思えます。よろしくお願いします。

## 「生涯一町民一スポーツ」

スポーツ推進委員会代表

小口 智津子

私は、社会教育委員会の活動を通して、子どもと地域の関わり合いとしてスポーツに取り組んできました。スポーツ推進委員としても活動していますので、平成25年度から始まっています「スポーツ推進計画」を町民の皆さんによく知ってもらいたい

と思えました。「生涯一町民一スポーツ」を基本として、スポーツを「みる」「する」「ささえる」「ひろめる」の四つの基本目標がありますが、中には知らない方々もいる現状です。下諏訪体育館で行う体力づくり教室でも町民の皆さんはもち

ろん、子どもたちを多く受け入れようと試行錯誤してきました。親子での参加はもちろんのこと、四年生以上は子どもだけの参加も受け入れていましたが、なかなか参加人数は多くなりませんでした。子どもたちの土日の参加は、他の習い事と重なり、むずかしいということでした。また、スポーツが苦手だから他の人と比べられるのが嫌だという人もいますので、そこも考えなければいけないところでした。

ギネス大会では、学校を通してクラス単位での参加もありました。先生も一緒に競争をしている姿はとてもよかったです。ギネスに限らず、他のスポーツにも挑戦してもらえたらいいと思います。これをきっかけに、他の子どもたちにも参加してほしいと思えました。

また、他者と競い合う競技スポーツのみならず、生涯にわたって運動・スポーツに親しみ、家族や仲間とのコミュニケーションもとれ、他者とのかわりによって思いやりのある心も育つようになると思います。



ニュースポーツは、子どもから高齢者まで幅広くできる内容もあるので、多くの町民の皆さんに活用していただきたいと思っています。運動を始めるのに何から始めようと迷ったら、健康増進のためにラジオ体操から始めませんか。これからも子どもたちのために、スポーツ普及に努めていきたいと思えます。

## 町民大学

### 下諏訪を学ぶ ②

※コロナウイルス感染症の拡大状況から、講座内容の変更および開講が中止となる場合があります。



演 題：「星ヶ塔遺跡が語る縄文世界  
—手のひらにのる黒曜石からはじまる考古学—」

講 師：宮坂 清 公民館長 (日本考古学協会会員)

日 時：7月12日(日) 午後1時30分～午後3時00分

会 場：文化センター2階 集会室 ※当日受付可(受講料100円)

2020年は国史跡星ヶ塔遺跡が発見されて100年目にあたります。あらためて星ヶ塔遺跡とはどんな遺跡なのか、大正時代以来の調査の足跡を振り返るとともに、私たちの行ってきた調査の生々しい様子をスライドで紹介し、縄文時代の黒曜石鉱山を探求する考古学調査の楽しさをお伝えしたいと思います。

そして、星ヶ塔遺跡や黒曜石の研究が、縄文人の生活を解明するうえで重要な役割を果たすことを研究の実践例から紹介し、人類の生活世界を探る考古学研究の魅力をお伝えしたいと思います。

## 町民大学

### 下諏訪を学ぶ ③



演 題：下諏訪の文学〈13〉  
「下諏訪の文学碑・文学遺跡を町おこしに活かそう」

講 師：小口 明 先生(元下諏訪町教育長・島木赤彦研究会名誉会長)

日 時：8月9日(日) 午後1時30分～午後3時00分

会 場：文化センター2階 集会室 ※当日受付可(受講料100円)

わが町には他に誇れる俳句・短歌などの文学碑、広く知られた文学作品の舞台・登場者の墓など数多くあります。ですが、身近にありすぎて関心が低く、宝のもちぐされ。身近な町の宝を知り、学び、それを町を訪れる多くの皆様に伝え、町おこしに役立たせませんか。・・・そんなあなたのごく近くの財産のねうちの学習会です。

お問い合わせ 下諏訪町公民館 ☎28-0002

## カブクニ

六年前にいただき飼育を続けているスズムシが今年も六月初旬に孵化しました。孵化して十日ほど経ち一回目の脱皮をし、触角を除くとちょうどアリくらいの大きさになっています。

孵化をしたばかりは白いのでどこにいるかすぐ確認できませんが、一時間ほどすると黒くなり、土や炭(消臭の効果もあるので木片の代わりに木炭を入れていきます)の隙間に入ってしまうとなかなか見つけれません。捕食されないように天敵から身を守っているのですが、エサを与えると寄ってくるのがかわいく見えます。

昆虫の中には、擬態といって周囲のものや他のものに姿を似せて自分の身を守っているものがあります。例えば、目立たないように木の幹、枝、葉っぱに似せるもの、逆に目立つように鳥の糞や蛇の目に似せるものもあります。

植物も自分の命を守るために進化してきたと言われています。たとえば、とげや固い殻をもっているもの、害虫や動物が嫌うにおいを出しているものがあるようです。

動物も昆虫も植物も逆境の中で生き抜いていくために進化してきたのでしょう。人間も新型コロナウイルスから身を守りながら共存できる日が早く来るのを願うばかりです。

(曾根原義治)